一般会議会議録	
1　開 会 日	平成２４年７月２４日　　午前１０時００分　開会 午後　０時００分　閉会
2　場　　所	大磯町役場４階第１委員会室
3　出席議員	総務建設常任委員会 土橋秀雄委員長　（司会） 高橋英俊副委員長（書記） 奥津勝子委員　　片野哲生委員　　髙橋冨美子委員 坂田よう子委員　　清水弘子委員 渡辺順子議長
4　傍聴議員	二宮加寿子議員　　竹内恵美子議員　　鈴木京子議員 関　威國議員
5　出席町民	特定非営利活動法人大磯ガイドボランティア協会 山田喜一会長　　佐竹明雄副会長　　浅見和男副会長 松井保典理事　　小松次夫理事　　大谷弘道理事 斉藤直人理事　　三田村洋子理事　　杉本純子理事 武井久江理事
6　職務のため出席した職員	局　　長　飯田　隆 書　　記　加藤和男
7　議　　題	（１）大磯町の観光政策について （２）その他

8　その他

町民側からの資料提出

・平成 24 年度通常総会議案書
・正岡子規も愛した松籟ひびく「長者林」の別荘地跡をたずねる
・明治の群像Ⅲ～近代日本の産業を牽引し財閥を創った男たち～
・協会主催ガイドのご案内（平成 24 年４月～平成 25 年３月）
・平成 23 年度企画ガイド来訪者地区別比率

（１）総務建設常任委員会委員長あいさつ

一般会議への参加に感謝する。一般会議に入る前に、一般会議の考え方、議事進行について説明させていただく。一般会議は、町民の方と議員が今後の町政に関すること等について建設的に意見交換等を行う会議であるため、団体、個人の利益や要望を受ける会議でないことを理解していただきたい。この会議は、大磯町議会の規定により公開することとなっている。また、作成した会議録も要点記録として公表するため、会議は記録作成のために録音する。会議録は作成後、団体代表に確認いただいた後､町ホームページ､議会だよりにその概要を掲載する。そして、本日の意見交換における意見、提言等で重要な問題は、議会の判断で町側に報告する。以上のとおり、了承をお願いする。

これから、会議テーマ「大磯町の観光政策について」の一般会議を開催する。

（議長あいさつ）

より良い意見交換ができることを望んでいる。よろしくお願いする。

（２）出席者自己紹介

○議員自己紹介（総務建設常任委員会委員７名・議長）

○ＮＰＯ法人大磯ガイドボランティア協会自己紹介（会長他９名）

（３）大磯ガイドボランティア協会からの会議テーマ趣旨、意見要望

（会長）

町活性化のためには、観光事業をどのように充実させるかが非常に重要である。ガイドボランティア協会でガイドの企画をいろいろ行っても、町全体の観光の活性化にうまくリンクしていない。観光協会、商工会、ガイドボランティア協会が個々に活動するのではなく、町としての基本的な観光政策に基づき、各団体がコラボレーションし、協働関係をつくっていくことが非常に重要であると考える。町の観光全体について、その現状を意見交換して議員に知ってもらい、いい方向へ改善できれば町の活性化に繋がるのではないかと考えて一般会議を申し込んだ。

（理事・副会長）

ガイドボランティア協会の事業内容について説明する。

① ガイド事業は、「企画ガイド」「予約依頼ガイド」「支援ガイド」の三つ。「企画ガイド」は 11 回開催し、来訪者は 974 名。「予約依頼ガイド」は 529 名。「支援ガイド」は 610 名。平成 23 年度は合計 2,113 名が参加。

② 協会員向けに 27 件研修を実施し、研修旅行を年１回（バスで小諸）実施している。

③ 新人の協会員をつくる意味で、養成講座を実施している。年４回会報を作成して、関係団体に配布している。

④ 資料編纂部会を設け、資料編纂事業として、ガイドのいろいろな資料をまとめている。

⑤　「まちあるきマップ」を作成。駅周辺マップを 3,000 部作成し、最近では、西部地区のマップを作成した。
⑥　文化講演会を実施。平成 23 年度は石川旺氏を講師に迎えて実施し、参加者約 200 名で盛況に終了した。
⑦　県内では、17 のガイドボランティア協会が加盟する「神奈川ガイドボランティア協議会」がある。幹部研修会では、各団体の活動状況、情報交換、新人教育などの共通のテーマで勉強会を開催している。また、相互に訪問する訪問ガイド研修を実施しており、平成 24 年５月の国府祭には 11 団体、49 名が参加した。
⑧　毎月、協会員全員参加による定例会、理事ら 14 名参加による運営委員会を実施している。

他市町村のガイドボランティアの活動について補足説明する。
①　小田原市では、市営駐車場の管理委託をガイドボランティアが受け、その費用の支払いを受ける代わりに、小田原城を無料案内している。また、事務所を借りている。そして、ガイドボランティアが行政の業務の一部を請け負う代わりに、事務所や電話などの費用についてガイドボランティアが行政からサポートを受けるという協力関係がある。
②　横浜市では、マリンタワーの２階にガイドボランティアの事務所があり、事務所を借りる代わりに無料案内をしている。
③　横浜市の金沢では、行政の観光企画に企画段階から参加し、トータル企画のうちの何割かをガイドボランティアが受け、サポートしている。
④　南足柄市では、市の強力な観光行政もあり、市の施設の一部を借りて行政と一体となり客を呼び込む活動をしている。
大磯のように行政のサポートがゼロという団体も多いが、行政や観光協会と連携して間接的な行政のサポートを受けているところも多い。

（会長・副会長）
予約依頼ガイドの年間推移を見てみると、平成 20 年の参加者は吉田邸の関係で多かったが、焼失後は減少傾向にあり苦労している。
企画ガイドは、吉田邸焼失のダメージをカバーするため、自主的にいろいろな企画を考えて努力した結果、増えてきている。
来客者も広範囲であり、その内訳は、大磯が 12%、平塚 23%、茅ヶ崎 20%、藤沢 17%、小田原 14%、東京からも来ている。
誘客の方法としては、町の広報、平塚のタウンニュースや湘南ジャーナル、茅ヶ崎の湘南井戸端会議、藤沢の湘南リビング、小田原のポスト、横浜の朝日新聞マリオンに掲載している。確実にこの効果が出ていると思う。タウンニュース以外は無料であるが、掲載してもらえない場合がある。

（副会長）
　ガイドを行う前には、参加者に配布する資料の10倍以上の資料で勉強している。左義長、国府祭への参加者が減少傾向にあることから、大磯の伝統的な行事やお祭りを宣伝していきたい。国府祭を知らしめたい気持ちから、この訪問ガイドを企画した。
　ガイドをしていて困るのは、別荘などが何も残っていない所で説明しなければならないことである。「かつてここにありました」という説明を熱心にしてはいるが、看板なり一つ証拠があれば、もっと臨場感を持って話ができるし、興味を持ってもらえると思う。
　平塚では見附のモデル、案内看板を設置しているが、大磯は宿場の見附跡はない。大磯町でも宿場関係のものはガイドボランティアで作成したものがあるが、もっとあればよいと思う。
　コース設定は、午前９時半にスタートして正午に終る形となっている。正午に終了するので食事場所を案内しているが、やはりきちっと案内ができる形をとることが、「おもてなし」の基本だと思う。また、ガイド中に買い物をしたい客がいた場合には、時間を割いて案内しているが、ガイド日と定休日が重なり残念なこともある。今後は、トータルでのもてなしを考えていく必要があると思う。
　今後の計画では、ただガイドをするだけではなく、ガイドをした後に何かをつけてトータルで案内するために、コラボレーション企画を考えている。５月に県立城山公園の公園協会とコラボして実施した。内容は、ガイドボランティアで午前中に客を大磯の緑深き小路に案内し、城山公園で昼食をとってもらい、午後に公園協会が企画した琵琶の演奏を聴いていただくというものである。また、12月には、もみじのライトアップの時に実施したいと考えている。
　また、来年、３年前に実施した明治の群像シリーズ「８人の宰相」を再び実施したいと思っているが、それとのコラボも現在、考えている。

（理事）
　元はあったが現在、何も残っていないところでガイドする場合には、かつてあった建物の写真、人物の写真等を紙芝居的に見せながら行っている。
　そのため、一つの企画をする場合には、資料に基づきガイド者は、大体４回ぐらい下見やリハーサルで町を歩き、勉強をしているという状況である。

（会長）
　ガイドで使用する資料作成は、パソコンやメールを活用している。自分でパソコンから取り出したり、46人の協会員間のメールのやり取りにより対応している。しかし、打ち出す費用は自己負担であるという現状を知っておいてほしい。

（４）議員との質疑応答
　問：　よく視察先でガイドボランティアの方にお願いし、説明してもらうことが

ある。そこでは観光協会にガイドボランティアの出先があり、ふらっと来た人でも利用できるようになっている。大磯駅前は狭いが、そのようなことが出来ないのはどうしてなのか。

答：　協会内では、土日に駅前に立ちガイドするという協会員の希望は出ている。しかし、企画ガイドや委託ガイドもあり、46人の協会員のうち実働は半数程度という現状を考えると、実現は難しい。今後、検討課題だとは思っている。

問：　ＮＰＯ法人になったので、事業化してある程度利益を得て、観光協会と拮抗するくらいの力となることを期待する。そうすれば、指定管理など様々な競争ができ、よりよい形ができるのではないかと思うがどうか。

答：　ＮＰＯ法人であるため独立採算で事業を行うことは承知しているが、昨年の決算状況のとおり、何らかの形でのサポートがないと現状は難しい。

問：　跡地という形は残念であるが、今あるもので残せるものを頑張って残していくことが私たちの使命ではないかと思う。アオバトなどもそうである。町の観光を活性化させるため、豊富なガイド経験から、特に残したり、何をしたらよいかという意見を是非お聞きしたい。

答：　外から来る方への「おもてなし」の具体的な形としては、トイレの必要性を非常に感じている。大磯のトイレは、観光地としては非常に粗末である。神社や公園のトイレは悲惨である。例えば、稲荷松公園などは立派なトイレであるが、男女共用で一つしかない。２０人ほどを連れて行くと、トイレだけで20分～30分ぐらいかかる。少なくとも、男女別に２つや３つあってほしい。案内をして感じるのは、コースの中間地点である白岩神社周辺にトイレがほしい。

　また、トイレのメンテナンスは重要である。町の観光とか全てに情熱をもっていないと、トイレのメンテナンスはできない。町を挙げてトイレをきれいにするという仕掛けをつくる、そういうプロジェクトを立ち上げて取り組むことが大事ではないかと思う。

答：　町の活性化の提案という点では、大磯には有用な人材が多く、いろいろな活動団体、ＮＰＯ法人があるが、独立で動いても、大きい動きにはならない。そのため、コラボレーションして一つのものをつくっていくことが必要だと考えるが、大磯ではそれがほとんどできていないと思う。

　町外からのお客を他の団体の催しにも案内して、お客に食事や買い物もしていただく。１日、大磯で遊んでよかったと帰っていただくことがガイドの喜びでもある。

　ガイドの一番の悩みは事務所の問題もあるが、無料で会合ができる場所がほしい。コラボレーションのことで他団体と打ち合わせをするにも、市民センターのような無料で利用できる場所があれば、より活発に物事が動くのではないか。行政としては、そういうことをサポートしてほしい。

意見：　ガイドを無料でするのではなく、ある程度、有料とすることが必要ではないかと思う。

外では駅前に行くと観光協会があり、ガイドボランティアがいて、案内話やパンフレットなどを提供してもらえる。そういう点でガイドボランティアの可能性は大きく、活動に大変期待する。また、トイレの不足は聞いてはいたが、実際に使用している方の意見を聞くことができたことは意義があった。

問：　跡地の表示、食事場所、トイレの問題、事務所の問題など、協力の仕方について検討が必要だと思うが、観光協会や商工会も協力できる部分があるのではないかと考える。確認したいが、平成23年の収支決算表を見ると、前期繰越金が52万9,604円ある。残すという前提で予算を組んでいるようだが、何か理由があるのか。

答：　４、５年前に国府地区の地図を作成する際、いろいろな店の名前を出したので協賛金をいただいた。新たに本や地図を作るときの資金として、基金として別にしておいたものである。

問：　ガイド資料は自費で対応していると聞いた。コピー代やインク代には結構かかると思うので、きちんと事業費の中に組み込んで整理したほうがよい。繰越金として50万円以上を残しておくことは少し疑問に思う。

答：　地図を作る前の段階で、ガイドボランティア連絡協議会の総会を大磯で行った際に、商店の寄附を募り、大磯の歴史「別荘」と題したきれいな冊子をつくった。いずれはガイドボランティアが勉強を重ねたものを集約して書物を発行したいという希望があり、代々受け継がれてきている。商店の人たちの思いを受けていただいた寄附であり、そういうものに反映したいという願望から繰り越しているものである。

意見：　繰越金という処理ではなく、使用目的を明確にして特別会計とか別会計で処理したほうがよい。資産計上として取っておく形にしないと、残額と思われてしまう。

問：　事務所の経費が出ていないが、事務所をどちらに借りているのか。

答：　以前は「はまひるがお」を連絡場所にしていた。会議で借りると１回につき1,000円、利用者は400円のコーヒーを飲むことが条件であった。収支決算表では、事務所費というのはなく会議費の中に含まれている。

今年の５月から、協会として商工会の会員となり商工会を連絡場所として借りている。１月１万円で、郵便の受け付けと平日の電話対応をお願いしており、事務所機能を保持している状況である。

意見：　説明を聞けば理解できるが、数字上は誤解を受ける。事務所経費を予算計上しないと、厳しい実態が伝わらないと思う。

問：　特別に事業を考えるのであれば毎年繰り越しをするより、特別会計という形できちっと説明できるようにしたほうが、よりよいのではないか。

答：　以前は特別会計にしていたが、協会員が理解しやすいようにするため、２年ほど前に一緒に組み込んだ。ＮＰＯ法人となった今、対外的にこの対応はよくないという気もする。

意見：　他のＮＰＯ法人に関わっている立場から言うと、繰越金について県から指摘を受けたことがある。何かをつくりたいということならば、特別会計ではなく、27番の事業特別積立金という費目に積み立ててはどうか。県はよく指導してくれるので聞いてみてはどうか。よく研究して第１歩を進めてほしい。

問：　大磯に来られた方に対し、協会員がローテーションを組み、土日に駅前でお待ちしてガイドをするのは難しいということであるが、ガイドをお願いしたいときに、申し込みを受け付ける仕組みはどのようになっているのか。

答：　駅前で常にお待ちするのは体制としては無理であるため、予約制をとっている。また、予約コースは事前に相手と相談して決めている。

問：　依頼を受けた場合、ガイド者はいくら手当としてもらうのか。

答：　依頼ガイドと企画ガイドで金額が違う。参加者の負担は、依頼ガイドが１人、300円、企画ガイドが１人、500円である。依頼ガイドの場合には、ガイド者は１回につき500円を受け取っている。なるべく、１回の依頼で５人以上集まってもらうことを希望している。また、企画ガイドには、参加者の傷害保険料が含まれている。しかし、企画ガイドの場合には、ガイド者は傷害保険に入っているが、全額を協会の運営費に当てているため、ガイド者が直接受け取る金額は無い。

意見：　企画ガイド収入は可能性があると思う。もっと伸ばせるのではないか。

問：　タウンニュースに「いそっこ海の教室2012」実行委員長の加藤孝さんが特集されていた。その中で加藤さんは、港や海の視点から、大磯を新たな観光地に育てていきたいと語っている。大磯は海水浴場発祥の地でもあり、こうした加藤さんの思いとガイドボランティアとのコラボレーションについて、何か考えを持っているか。

答：　加藤さんは港の大磯市に関係しており、先般、ガイドボランティアも実行委員会委員としてはじめて参加した。ガイドボランティアとして何ができるか、せっかく集まったお客を大磯市の前後に案内して大磯を巡回できるよい

方法はないか、お客の志向や要望、内部の体制なども含めて検討中である。
　また、湘南マラソンでは、定点ガイドで藤村邸と鴫立庵を無料で案内している。こうしたテストケースをもとに、どのようにガイドボランティアが関われるかを今検討している。

答：　大磯は別荘地で有名だが、いつまでも別荘だけでは誘客できない。フラワーフェスタや県立城山公園のライトアップ開催時にコラボした実績もあり、いろいろな団体とコラボレーションし、新しい大磯の観光資源を開発することを大きな目的としている。

答：　県の事業でクルージングを行った際、町歩きとクルージングがコラボすることを期待したが、時間的制約、昼食場所や船の運航の問題、そして漁港使用の漁師の生活圏の侵害などの理由から、今は計画が中断した状態である。

答：　今のクルージングは、横須賀港から回航する費用が一番ネックである。湘南の海に常駐するだけのニーズもない。事業を実現するためには、相模湾地域全体が一つになり事業を実施しないと難しいため、今後の課題と考える。

意見：　クルージングは、大磯の商工会独自では予算的に難しいため、葉山と真鶴に呼びかけた経緯がある。町としては、葉山や真鶴ではなく大磯に誘客したいが、観光的に充実していない。別荘は消え、住宅に変わっている状況である。大磯の観光は、新しい観光資源を作り出さないと、今後の誘客は難しいと思う。
　観光資源の開発として、大磯をゾーン分けしてはどうかと考える。たとえば、国府は鎌倉ゾーンとして不動川に千本桜、国府祭に関連してあやめの里をつくる、小磯は明治ゾーンとして整備するなど、地域ごとにテーマを決めて整備することで観光資源が創造できるではないかと思う。

要望：　ゾーン分けも一つの大きなことだと思うが、差し当たりできることとすれば、建物の現物等がない所で説明する際に利用できるよう、観光資源を風化させないために、標識や案内看板を町が積極的につくってほしい。

問：　企画ガイド参加者で大磯の方が12%であるとの説明があった。ガイドボランティアの規約に社会教育の推進とあるので、大磯の小中学校の児童や生徒に、大磯の歴史を話し、子ども達に大磯の歴史とか観光に興味を持ち、発見させるような機会を設けてはどうか。12%という数字も上がるのではないか。

答：　12%が低いというために提示したのではなく、圧倒的に外からの来訪者が多いことを説明したかった。また、児童・生徒への機会は、３年前に大磯高校生の文化講演会への参加提案をしたが、参加者がゼロだったことがある。今後は地元の小中学校に対し、そのような機会をつくっていきたい。

答：　以前、小中学校の生徒やＰＴＡ、教員を対象に、相手方からの依頼により行なったことがあるが、依頼が継続されなかった状況である。

答：　外からの客のことも重要だが、町民が大磯に誇りを持てるような、郷土愛を強化することが重要である。区長会や高齢者会、福祉関係の団体に話をしているが、大磯を知らない人に歩いて知ってもらい、それを子どもや孫に伝えていく。また、健康面でも歩くことがプラスとなる。このようにガイドを通して、町民に大磯の歴史を知ってもらい、大磯に対する強い思いを持ってもらうという方法論は確認しているが、まだ具体的には進んでいない。観光の基盤をつくるという点から努力していきたい。

答：４年前に、大磯中学校1年生全員の半日ガイド、大磯小学校のクラスガイド、大磯に赴任した教師のガイドを実施したことがある。その後の学校からの依頼を期待したが、連絡がない状況である。子どもたちに対して大磯の歴史を勉強する機会を作ってほしいし、協力したいと思う。

問：　神奈川県は既に観光振興計画を策定している。町としても観光立町という中で、観光についての基本計画や実施計画をつくり、計画に基づき事業を実施していかなければならないと思う。計画策定することにより、実施計画に連絡事務所、資料保管、看板設置、トイレ整備の件等を計画付けることもできると思う。町観光の連絡協議会でもガイドボランティアの思いを伝えていると思うが、観光の基本計画や実施計画をつくることを提案してほしい。また、観光行政をリードしていく一翼を担っているガイドボランティア協会が、連絡協議会を引っ張り上げるような動きをしていただきたいと思うがどうか。

答：　連絡協議会では、事務連絡程度の話し合いにとどまり、町の活性化のためにどうしたらよいかという議論がほとんどできていない状態である。これは、町の基本政策がなく、町は実行委員会の中で基本政策の提案者としてリードすべきところ、協力者、お手伝いの立場になってしまっている。自分達が体を動かしていることを行動していると錯覚しているものと思われる。

　町は基本政策について考え、大きな計画の中で、ガイドボランティアの役割、観光協会の役割、町の役割について任務分担を明確にしなければならない。しかし、現時点では基本政策がなく、具体性がない。目標や任務分担について仕切ることができるのは町であり、町が中心となり意義づけ、動機づけをしっかり提起してほし。

答：　町の観光の連絡協議会において、観光協会、商工会、ガイド協会等観光に携わる団体のコーディネーターは、行政であると思う。しかし、行政はパンフレットを一生懸命作るなど、一作業員となっている。本来の行政の役割は、観光協会、商工会、ガイドボランティア協会をまとめ、それぞれに任務分担を割り振り、その進捗状況をチェックし、観光立町を目標として、全町一致して、町民のベクトルを引っ張っていくことにある。これが本来の行政の仕事である。

　行政はコーディネーターとして、一歩上の立場に立ち、観光行政を推進するよう、議員から行政に気合を入れてほしい。

意見：　町として観光の基本計画、実施計画をつくるために連絡協議会を設置してすでに５年が経っている。町長が代わっても行政の継続性としてはおかしい。ガイドボランティア協会、観光協会、商工会の三つの柱が協働して、よい形となることを期待している。議員もその点を推していきたいと思う。

要望：　町は異動の際、引継ぎがきちっとされていない。連絡協議会の件も継続していなければいけないが、異動により清算されてしまう。町長は改革というが、そのような職員の体質を変える改革をしてほしい。

（５）土橋委員長あいさつ

ガイドボランティア協会の活動や観光政策に対する考え方を通して、現時点で町に確固たる観光政策が存在しないとい感じた。また、歴代の町長は観光立町・大磯と言ってきてはいるが、観光に対する皆さんの考えと委員の考えが近づいてきたことは事実である。町として観光立町の言葉の重みをしっかり考え、計画を持ち進める必要があると思う。５月の機構改革で設置された産業観光課とは、観光について本委員会との話し合いはまだ行っていない状況であるが、この一般会議により、観光政策というものを正していかなければいけないことを感じた。

本日は、参加者からいろいろ貴重な意見を伺うことができ、議会としても観光政策等に関する貴重な意見を踏まえ、議会運営を推進していきたいので、これからもよろしくお願いする。